

じぶんの町を良くする会議 2022 第 11 回 赤い羽根全国ミーティング 開 催 要 項 (第 4 版)

「ポストコロナ社会の地域共生に共同募金はいかに役割を果たせるか」

1 趣 旨

- 赤い羽根全国ミーティングは、共同募金運動に携わる関係者が集い、各地域での先進的な事例や地道な取り組みについて共有しながら、共同募金の役割や可能性について語り合い学び合うことを目的に 2010 年から開催されてきました。
- 2021 年度の第 10 回ミーティングは、パンデミック下の地域の変化と、それに寄り添ってきた地域福祉、そして共同募金の役割と可能性について考えることを主題に、オンライン形式により開催しました。
- さて、2020 年に行われた社会福祉法の改正では、「地域共生社会」の実現が目的とされています。地域における重層的なセーフティーネットを確保していくためには、住民はじめ多様な主体の参画による活動の促進が欠かせません。
- あらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら生活していくことのできる地域コミュニティづくりのための資金として、共同募金が存在感を発揮していくために、中央共同募金会では「企画・推進委員会」での議論を本格化させています。
- ついては、今年度のミーティングでは、ポストコロナ時代における地域共生社会づくりに共同募金がどのように寄与していくかを学び合う機会として開催します。

2 主 催 社会福祉法人 中央共同募金会

3 共 催 社会福祉法人 全国社会福祉協議会（予定）

4 期 日 令和 4 年 7 月 5 日（火）～6 日（水）

5 参加対象

- (1) 市区町村共同募金委員会役職員・運営委員等
- (2) 都道府県共同募金会役職員・配分委員等
- (3) 市区町村社会福祉協議会役職員
- (4) 都道府県社会福祉協議会役職員
- (5) 共同募金会の募金協力組織・団体の皆さま
- (6) 共同募金会の助成を受けた活動団体の皆さま
- (7) その他関心のある方

6 開催方法と定員

ハイブリッド形式により開催するため、以下(1)(2)のどちらかを選択いただきます。

(1) 会場参加〔定員 100 名(先着順)〕

会場：新霞が関ビル 灘尾ホール（東京都千代田区霞が関 3-3-2）

(2) オンライン参加〔定員 200 名(目安)〕

7 参加費 3,000 円

8 参加申込 以下アドレスよりお申し込みください。

<http://www.mwt-mice.com/events/hane2022>

※6 月 27 日（月）17 時受付締切です。

10 プログラム概要（調整中）

○プログラム① 7 月 5 日（火） 13：30～15：20

パネルディスカッション「地域福祉の広がりと共同募金」

コーディネーター：日本福祉大学 教授 原田正樹 氏

パネリスト：①茨城県共同募金会 係長 仲田和人 氏

②福岡県大牟田市社会福祉協議会 事務局長 内田勉 氏

③NPO 法人 POPOLO 理事長 及び

フードバンクふじのくに 事務局長 望月健次 氏

④全国社会福祉協議会 地域福祉部 副部長 水谷詩帆 氏

* パンデミック下にあって、孤立・孤独や生活困窮の状態が継続化、固定化したり、外国にルーツのある住民など、これまでから比較的弱い状態にあった市民が困窮状態に陥るケースが地域に多く見られるようになっていきます。

* こういった支援ニーズに対しては、住民はじめ多様な主体が参画した活動により、地域における重層的なセーフティーネットを確保していく、地域共生社会の観点が欠かせないものとなります。

* このプログラムでは、まず、パンデミック下の支援ニーズに対して、共同募金がどんな助成プログラムを提供したかを共有し、それにより、どのように迅速で的確な支援が実施できたか、事例を紹介し得られた効果を確認します。

* そのうえで、地域福祉の支援範囲の拡大に、共同募金として適切な助成を行ってきたことが、これからの地域共生社会づくりに大きな役割を果たしていく期待につながっていることを考えていきます。

○プログラム②7月5日（火） 15：50～17：30〔名刺交換会 ～18：00〕

「令和3年度運動の振り返りと評価」

評価・助言：東京都立大学 准教授 室田信一 氏

事例報告：奈良県田原本町社会福祉協議会 主事 中畑佑一 氏

静岡県函南町社会福祉協議会 係長 中村美那子 氏

山口県防府市社会福祉協議会 総務係主事 赤川晋作 氏

報告・進行：中央共同募金会

- * 令和3年度共同募金運動の振り返りを、顕著な活動を行った地域の活動報告を通じて行っていきます。
- * 力を入れて取り組んだ地域の事例の報告をうけ、グループワークにおいて、それぞれの地域でやってみたいこと、課題などに引き寄せながら、各事例について自由に意見交換を行います。
- * 意見交換の結果を共有しながら、共通性のあるキーワードを探し、令和4年度運動に向けて大切にしたい要素を抽出していきます。
- * 終了後は、18時まで名刺交換会として会場を開放します。

○プログラム③7月6日（水） 10：00～11：40

「地域の多様な団体とつながる募金・助成の取り組みの推進」

コーディネーター：同志社大学 名誉教授 上野谷加代子 氏

事例報告①：青森県六戸町共同募金委員会 事務局次長 十文字朋人 氏

青森県共同募金会 主事 棟方正大 氏

事例報告②：長野県社会福祉協議会 総務企画部 主任企画員 中島将 氏

長野県共同募金会 事務局長 塩澤宏之 氏

- * 都道府県共募と市町村共同募金委員会(市町村社協)の協働により、助成と募金を総合的にうまく循環させるよう運動に取り組んでいる事例を発表いただきます。
- * 循環のなかで地域の多様な主体とつながりあい、地域福祉の輪をさらに広げるようなイメージで、共同募金が運動を推進していくためには何が必要かを考えます。
- * そのなかで、都道府県共募、市区町村共募委のこれからの役割期待をふくらませていきます。

11 主催者担当

中央共同募金会 運動推進部

Tel. 03-3581-3846 / E-mail. suishin@c.akaihane.or.jp